

平成21年度活動報告



特定非営利活動法人
日本・イラク医学協会

1. イラク保健省 副大臣日本招聘

平成22年2月、日本・イラク医学協会と会員企業であるアイテック株式会社の共催で、イラク保健省のイサマルディーン副大臣を招聘しました。今回の招聘は、アイテック株式会社がイラク国内10サイトで進めている400床規模の教育総合病院建設プロジェクトの一環であり、同プロジェクトの担当局長であるダファー氏ならびにプロジェクトマネージャーのモヤッド氏も併せて日本に招聘いたしました。

6日間と大変短い滞在期間ではございましたが、外務省高官との面談やJICAへの表敬訪問、さらには、日本を代表する病院の見学や、病院建設の工程管理、病院運営に係る勉強会を実施することができました。

日本・イラク医学協会では、会員企業を含む医療メーカーを招き、日本の医療機器・設備を紹介する展示会を開催いたしました。また、副大臣ご一行の来日歓迎パーティーにおいては、国会議員の先生方や在日イラク大使館の臨時代理大使をお招きし、ご一行を歓迎いたしました。

I. 訪日メンバー(イラク保健省 3名)

- 1) イサマルディーン シュワーン副大臣 イラク国保健省
- 2) ダファー アルサーディー局長 イラク国保健省プロジェクト&エンジニアリング局
- 3) モヤッド ハッサン氏 イラク国保健省新10病院建設プロジェクト・PM

II. 来日期間 : 2010年2月23日(火)~3月1日(日) 6日間

- 2月23日(火) : ヨルダン経由にて日本到着
国立がんセンター 見学
イラク大使公邸 夕食会
- 2月24日(水) : 外務省表敬訪問 JICA本部表敬訪問
建設工程管理手法勉強会
榊原記念病院 見学
- 2月25日(木) : 東京女子医大付属病院 見学
ITシステム勉強会
メディカルファニチャー勉強会
医療機器展示会 (日本・イラク医学協会主催)
歓迎パーティー (日本・イラク医学協会共催)
- 2月26日(金) : 病院運営に係る勉強会
- 2月27日(土) : 都内観光
- 2月28日(日) : 日本出発 ヨルダン経由で帰国

III. 展示会詳細

イラク保健省関係者の方に日本の最先端の医療機器・設備について紹介するため、日本・イラク医学協会の主催で「医療機器展示会」を開催いたしました。当日は会員企業も含め、10社の企業にご参加いただき、日本企業の技術と製品を紹介する良い機会となりました。

開催日時： 2010年2月25日(木) 18:00～19:30

会場： ロイヤルパークホテル

参加企業： サクラインターナショナル株式会社

(五十音順) シスメックス株式会社
株式会社島津製作所
株式会社セントラルユニ
日本光電工業株式会社
株式会社ノルメカエイシア
富士フィルム株式会社
瑞穂医科工業株式会社
山田医療照明株式会社
株式会社山武

IV. 歓迎パーティー

展示会に続き、イサマルディーン副大臣ご一行の来日を歓迎し、日本・イラク医学協会と、会員企業のアイテック株式会社の共催で、歓迎パーティーを開催いたしました。

開催日時： 2010年2月25日(木) 19:30～21:00

会場： ロイヤルパークホテル

式次第： 1. 開会の辞
2. 歓迎の辞 山本保博会長（日本・イラク医学協会）
3. 返答 イサマルディーン副大臣（イラク保健省）
4. 祝辞 ムクリス臨時代理大使（在日イラク大使館）
5. 祝辞 久間章生前防衛大臣
6. 乾杯 都築正和名誉会長（日本・イラク医学協会）
7. 祝辞 末松義規衆議院議員
8. 閉会の辞

医療機器展示会



歓迎パーティー



2. イラク保健省局長 訪日診療

1. 経緯

2009年8月16日に石田専務理事がバグダッド訪問をした際、イラク保健省エンジニアリング局のダファー局長と面談をしました。ダファー局長には当協会の活動において、かねてよりイラク側のキーマンとしてご協力いただいておりますが、石田専務理事が面談した際は、体調不良ということで、杖をつき更に介護者に付き添われながら歩行している状況で、執務できない日も多いとのことでした。

面談の結果、ダファー局長が医療技術の優れた日本での診療を強く希望されていたため、当協会がダファー局長の訪日診療を支援することとなりました。

日本での診療受け入れに際しては、当協会の馬杉理事にご協力いただき、慈恵会医科大学附属病院において検査・診療をすることができました。

2. 滞在スケジュール

- 10月20日(火) ヨルダン・タイを經由して日本到着
- 10月21日(水) 慈恵会医科大学附属病院にて診察
- 10月22日(木) 協会・会員企業への表敬訪問
- 10月23日(金) 療養
- 10月24日(土) 療養継続
- 10月25日(日) 日本出発、タイ・ヨルダンを經由してイラクへ帰国

3. 診断結果について

診察日時：2009年10月21日 午前

場所：慈恵会医科大学附属病院・脳神経外科

担当医師：谷 諭 教授

診断結果：検査の結果、腰部椎間板ヘルニアと診断されましたが、今回は経過観察ということで、医師の谷教授から執務復帰へ向けた療養方法についての指導を受けました。手術を前提として訪日されていたダファー局長は、この結果に大変安堵されていました。

4. 協会訪問

ダファー局長は日本で手術を受けることを想定されていたため、長期滞在となる予定でしたが、手術を受ける必要がないとの診断結果から、帰国の日程を早めることとなりました。

10月22日には、当協会の都築名誉会長と会員企業であるアイテック株式会社の関社長(当協会理事)と会談の機会を持ちました。会談の席ではダファー局長の訪日を歓迎するとともに、今回の診断結果に対する安堵の意が伝えられました。また、当協会とイラク国との関係、今後の展望についてやイラク国での新10病院建設プロジェクトについて活発な意見交換が行われました。

5. 会員企業訪問

短い滞在期間ではありましたが、日本の医療機器メーカーと面談したいとの希望から、会員企業でもあるサクラインターナショナル株式会社および日本光電工業株式会社をはじめとする、日本の医療機器メーカーと交流の機会を持つことができました。

また、日本の病院設計のトップ企業の一つであり、会員企業でもある株式会社山下設計を訪問し、国内の先進病院の設計等について説明を受けることができました。



慈恵医大 谷諭教授と
(左より、谷教授、ダファー局長)



日本・イラク医学協会都築名誉会長、
アイテック関社長との会談



山下設計との会談
(右: 山下設計の田中副社長)

3. イラク大使館臨時代理大使 診療

1. 経緯

2009年8月末、バグダッドの外務省に対して大規模なテロ攻撃があり、イラクの外務官僚を含む大変多くの方々が負傷者されました。現在在日イラク大使館の臨時代理大使を務めるムクリス氏ならびに領事のバンデル氏もその爆発の被害を受けましたが、簡易な応急処置しか受けられることが出来ず、身体に不調を残したまま在日大使館に着任されました。

日本・イラク医学協会でも今回のテロ攻撃の犠牲者を追悼する集会に参加させていただいたこと、また、以前からイラク大使館とは関係があったことから、2009年10月末に当協会に対して診療支援の依頼がありました。

山本会長のご好意により、両名は山本会長が病院長を務める東京臨海病院にて診療を受けることとなり、日本・イラク医学協会が診療を支援しました。

2. 診療結果

ムクリス臨時代理大使は、テロ攻撃時の爆音による聴覚への影響を心配されておりましたが、詳細な検査の結果、鼓膜等への影響はなく、特に治療は必要ないとの診断を受けました。

バンデル領事については、検査の結果、爆風の影響で飛散したガラス片が一部体内に残っていることが判明したため、切開して取り除く手術を行いました。

両名とも日本の診療機関で十分な検査と治療をしたことで、非常に安堵されておりました。

【イラク大使館主催の食事会】



(写真左より) イラク大使館 ジャシム三等書記官、イラク人留学生医師、イラク大使館 ムクリス臨時代理大使、イラク大使館 バンデル領事、イラク人留学生医師 日本イラク医学協会 山本会長(東京臨海病院 病院長)、アイテック株式会社 石川会員